

# 指導資料



鹿児島県総合教育センター  
平成27年10月発行

## 特別支援教育 第183号

対象  
校種

幼稚園

小学校

中学校

高等学校

特別支援学校

### 特別支援学級における 生活単元学習の進め方の工夫

複数学年や障害種の異なる児童生徒が在籍する特別支援学級で、「生活単元学習はどのように進めればいいのか。」と不安を抱いている教員も少なくない。障害の特性や児童生徒の得意な「分かりの特性」に応じた具体策を、実践例を基にして紹介する。

#### 1 特別支援学級における生活単元学習実施上の課題

特別支援学級の教育課程は、基本的に小・中学校の学習指導要領による。ただし、対象となる児童生徒の障害の種類や程度などによっては、小・中学校の教育課程をそのまま適用することが難しい場合もある。そのため、学校教育法施行規則第138条において、特別の教育課程によることができる」とされており、その際は、特別支援学校の小・中学部学習指導要領を参考にすることとされている。

そのようなことから、知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学級では、各教科等を合わせた指導として生活単元学習を実施している学級が多い。生活単元学習とは、「児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に経験することによって、自

立的な生活に必要な事柄を実地的・総合的に学習するもの」（特別支援学校学習指導要領解説総則等編）である。そこで、各学校では児童生徒の実態に応じ、様々な内容や方法で実施されている。

しかし、特別支援学級の担任自身が、次のような課題を抱えているのが現状である。

- ・ 複数の学年の児童生徒が混在している学級編制のため、指導計画の編成が難しいと感じている。
- ・ 知的障害のある児童生徒や自閉症スペクトラム障害のある児童生徒が混在することから、具体的な指導について難しいと感じている。
- ・ 在籍している児童生徒の実態が多岐にわたっていることから、個々の指導が難しいと感じている。

国立特別支援教育総合研究所（平成22年3月）の研究結果報告書を基に作成

このような課題に対する指導の工夫として、以下、実践例を基に述べる。

#### 2 生活単元学習を進める上での工夫

生活単元学習の指導計画を作成し、指導する際には、以下の点に考慮し、個と集団で学ぶそれぞれのよさを生かしたい。

- ・ 単元は、実際の生活から発展し、児童生徒の知的障害の状態等や興味・関心などに応じたものであり、個人差の大きい集団にも適合するものであること。
- ・ 単元は、必要な知識・技能の習得とともに、生活上の望ましい習慣・態度の形成を図るものであり、身に付けた内容が生活に生かされるものであること。
- ・ 単元は、児童生徒が目標をもち、見通しをもって、単元の活動に積極的に取り組むものであり、目標意識や課題意識を育てる活動を含んだものであること。
- ・ 単元は、一人一人の児童生徒が力を発揮し、主体的に取り組むとともに、集団全体で単元の活動に共同して取り組めるものであること。
- ・ 単元は、各単元における児童生徒の目標あるいは課題の成就に必要なかつ十分な活動で組織され、その一連の単元の活動は、児童生徒の自然な生活としてまとまりのあるものであること。
- ・ 単元は、豊かな内容を含む活動で組織され、児童生徒がいろいろな単元を通して、多種多様な経験ができるよう計画されていること。

(特別支援学校学習指導要領解説 総則等編から)

## (1) 指導計画の編成について

単元によっては数日で終わる場合もあるが、1学期間、あるいは1年間続く場合もあるため、年間指導計画を作成するに当たっては、先述の考慮点を踏まえ、年間における単元の配置、各単元の構成や展開について十分に検討する必要がある。そして単元を設定する際には、次のような種類が考えられる。

- ・ 学校行事等を中心とした行事単元(運動会、学習発表会、遠足 など)
- ・ 季節の生活を中心とした季節単元(夏祭り、正月、花壇や畑作り、芋掘り など)
- ・ 児童生徒の生活課題を中心とした課題単元(買い物学習、校外学習、宿泊学習、働く人 など)
- ・ 偶発的な出来事を中心とした偶発単元(友達の見舞い、手紙を出そう など)

(鹿児島県総合教育センター『平成27年度特別支援学級経営ハンドブック』から)

複数の学年が混在している学級編制のため、時間割作成の際、特別支援学級担任は交流学級担任とはもちろん、教務主任等と綿密な調整を図る必要がある。特別支援学級在籍の児童生徒ができるだけ全員そろい、複数時間が連続する時間割を設定できるように連携、調整したい。

なお、単元名は「〇〇をしよう」等の

ように、児童生徒が活動の内容をイメージし、理解しやすいものが望ましい。

## (2) 障害種や児童生徒の「分かりの特性」

に応じた指導について

特別支援学級には、生活全体の支援が必要な知的障害のある児童生徒や、学力に大きな課題はないが、社会性に課題のある自閉症スペクトラム障害のある児童生徒など、在籍している児童生徒の実態が多岐にわたっている。そのため、障害の特性を踏まえ、児童生徒の得意とする「分かりの特性」に配慮しながら指導する必要がある。

例えば、「〇〇に行こう」という単元で指導する場合、計画を立てて実施し、振り返りをするまでの一連の活動を自然な生活の流れで見通しをもたせる必要がある。そこで、「分かりの特性」として継次的に処理することが得意な児童生徒に対しては、行く目的や日程、行き先、交通手段、所持品などを、順序立てて写真のような具体物や視覚的に分かりやすい板書等で示すことが考えられる。また、「分かりの特性」として同時的に処理す

ることが得意な児童生徒に対しては、地図上に行き先や使う物等、必要な情報をまとめて提示する方法も考えられる。このように、障害の特性を踏まえ、一人一人の「分かりの特性」に応じて提示方法

を変える必要がある。また、一斉指導で板書するだけでなく、**写真**のようにカード等を並べておける個別のボード等を準備して、一人一人に対応した支援をすることも必要である。

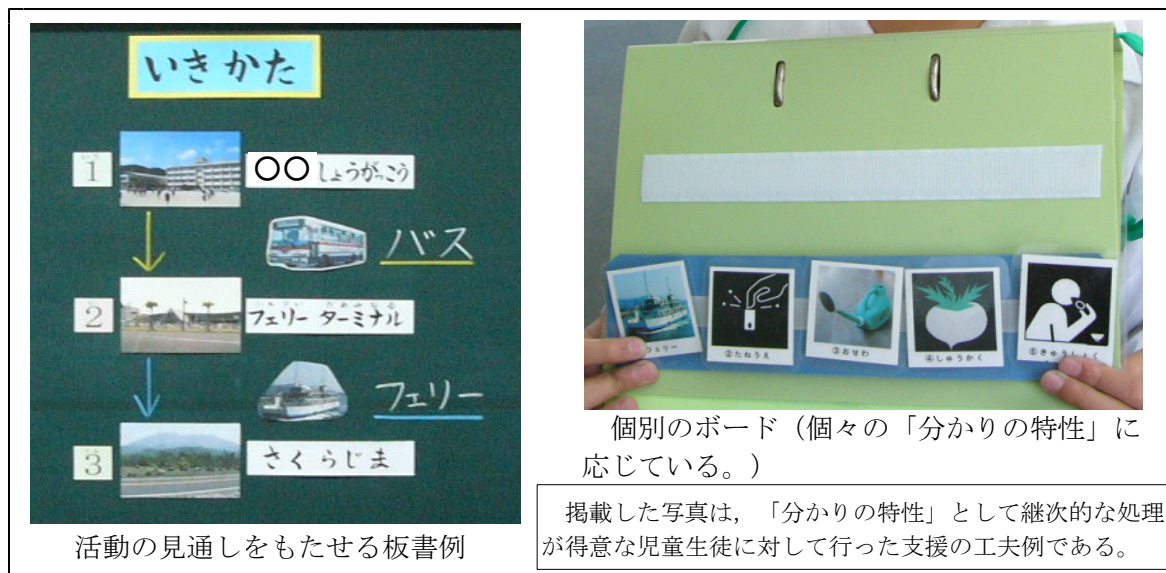


写真 活動の見通しをもたせる板書と個別ボード

### 3 実践例

ここでは、さつまいもの収穫から調理、さらに苗の植え付けから収穫までに携わった方々への感謝を表す活動までを一連の流れとした生活単元学習の実践例を紹介する。対象は、小学校知的障害特別支援学級と自閉症・情緒障害特別支援学級の合同による1年生から6年生までの8人で、全員が知

的障害があり、自閉症・情緒障害特別支援学級の児童は自閉症を併せ有している。

この実践では、単元導入時にシミュレーション活動を取り入れて、今後の活動の見通しをもたせやすくするための工夫をしている（図）。このシミュレーション活動の中で、障害の特性や個々の実態に応じた適切な支援を行っている。

| 過程 | 主な学習活動                                                                                   |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 学習の計画を立てる。<br>(本時)                                                                     |
| 展開 | 2 芋掘りをする。<br>3 「芋チャンピオン」を決める。<br>4 芋版を作る。<br>5 芋料理を作り、お世話になっている先生方に配る。<br>6 メッセージカードを作る。 |
| 終末 | 7 これまでのまとめをする。<br>8 「さつまいも発表会」をする。                                                       |

<学習計画（総時数12時間）>

芋掘りのシミュレーション

大きさ比べのシミュレーション

芋版作りの説明を受ける児童

芋料理のシミュレーション

図 生活単元学習「おいもをほってたべよう」におけるシミュレーション活動の位置付け

|           |                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1         | 単元名<br>おいもをほってたべよう                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 2         | 単元の目標<br>さつまいもの収穫や調理活動などを通して、季節の変化や収穫の喜びを感じるとともに、友達と協力して一つのことをやり遂げ、学んだことを表現できるよさや楽しさを実感できる。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 3         | 実際<br>〔 〕 児童の意識<br>〔 〕 教師の手立て<br>※評価                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|           | 主な学習活動と教師の手立て・評価                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 時間<br>(分) | 10                                                                                          | <p>1 VTRを視聴する。<br/>・ここはどこだろう。<br/>・僕たちが植えたさつまいもだ。<br/>・今年も掘るぞ。<br/>・これから何をするのかな。</p> <p>2 本時のめあてをつかむ。<br/>これからがんばるがくしゅうのけいかくをたてよう。</p> <p>3 今後の活動のシミュレーションをする。<br/>(1)「ほるほる」コーナー<br/>(2)「いもチャンピオン」コーナー<br/>(3)「いもペッタン」コーナー<br/>(4)「クッキング」コーナー<br/>(5)「カードづくり」コーナー</p> <p>4 今後の計画を確認する。<br/>・まずはいも掘りだね。楽しみだな。<br/>・次は何をするのだったかな。<br/>・これが楽しみだな。やってみたいな。<br/>・みんな聞いて。僕はこれをやりたいんだ。</p> <p>さつまいものことをたくさんべんきょうして、たくさんのひとにおしえるぞ。</p>                                                                                                                                                                                                 |
|           | 25                                                                                          | <p>さつまいも畑の写真を見せることで、学習のイメージと見通しをもつことができるようにする。<br/><b>同時に処理することが得意な児童に対する支援</b></p> <p>一人一人がめあてを読む活動を設定することで、本時はさつまいもの収穫に向けての導入場面であることを理解させる。</p> <p>体感したことと学習の見通しが一致できるようにするためにコーナー名を児童が日常使う言葉で表現する。</p> <p>体験した内容を文字と絵で表した3～4cm四方のカードを、自分のボードに入れるように指示する。<br/><b>*1)</b><br/><b>シングルフォーカスに対する支援</b></p> <p>五つのコーナーで体感したことを順序を付けて計画表に貼ることで、時系列での学習の見通しをもつことができるようにする。<br/><b>継次的に処理することが得意な児童に対する支援</b></p> <p><b>※ 楽しい活動を発表することができる。</b></p> <p>○ 達成できた児童には「他にはないかな。」と質問し、興味の幅を広げていく。<br/>○ 達成できなかった児童には、五つのコーナーへ再度行き、好きなコーナーを選んだことを賞賛する。</p> <p>発表したこと以外にやりたいことは、次の授業からみんなでじっくりできることを告げて、本時の頑張りを賞賛することで、今後の学習への意欲を喚起する。</p> |
|           | 10                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

執筆による実践を基に、一部改訂。ゴシック体は「分かりの特性」に応じた支援。

児童生徒が学んだことを活用するだけでなく、生活単元学習で新たな発見ができるように、個と集団の学びのよさをバランスよく取り入れることが大切である。そのためにも、児童生徒を主体とし、教師と児童生徒が共に活動できる生活単元学習を展開していただきたい。

\*1) シングルフォーカスの特性に対する視覚支援については、指導資料1789号（鹿児島県総合教育センター 平成25年10月発行）を参照。

#### －引用・参考文献－

- 文部科学省『特別支援学校小学部・中学部学習指導要領』平成21年3月告示，海文堂出版
- 国立特別支援教育総合研究所 平成20～21年度研究成果報告書『自閉症スペクトラム障害のある児童生徒に対する効果的な指導内容・指導方法に関する実際的な研究－小・中学校における特別支援学級を中心に－』平成22年3月
- 鹿児島県総合教育センター『平成27年度特別支援学級経営ハンドブック』平成27年5月（企画課）